

第十二條 徵發スヘキモノ左ノ如シ

- 一 米麥秫藭鹽味醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍庭園及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道瀛車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲グルモノ、外徵發スヘキモノ左ノ如シ但シ平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルヲ得
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
 - 二 職工鑛夫洗濯人ノ類

- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綳帶具
- 四 水車搗舂ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ軍馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クヘキモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校並ニ同等官現在ノ家屋

六 博物館書籍館
 七 病院盲啞院養兒院
 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
 九 製造場内器械室
 第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
 第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルヲ得
 第十八條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス
 第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム
 第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ

依リ特ニ其場所ヲ指定スルヲアルヘシ
 第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルヲ許サス既圍倉庫亦同シ
 第二十二條 宿舍既圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給スヘシ但シ駐軍三日以上ニ至ルキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス
 第二十三條 第十二項第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム
 第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルヲアルヘシ
 第二十五條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其採業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルヲ得
 第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ採業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツル

モノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クル者ハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在テハ全ク明渡サシムルヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ヲ爲シテ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償スル

金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戶長ニ届出ヘシ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラズ若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルル及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルルハ第三十二條ノ例ニ係ハラヌ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此ノ場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第二十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルルハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スルルハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルルハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書ア

ルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルルハ其乗載量五分ノ

三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルルハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但シ船橋及ヒ舢舨ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書ア

ルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ採業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代償若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルハ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フ

テ賠償ス全ク明渡サシムルハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

第二節 徵發事務條例

○十五年十二月第二十六號布達

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムル者トス
第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量

供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲タル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長士官以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ前任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習

若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人其町村内ニ在スル親物品營業者ノ内ヨリ立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ

在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タズ速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此

場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ理由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムル限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ

買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ
徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同
令第十二條第四項第七項第八項第十三項第一項中造船所工作所第
四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ
交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲ク
ルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用
スルトキ并ニ同令第二十條第六項ニ掲クルモノ解船及ヒ船ヲ借切
橋ヲ除クトシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付ス
ルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期
ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノハ徵發ヲ賦課スルハ
其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦
課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ルヲサ

ラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量
ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖也
此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣
拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ
- 二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量
- 三 秣藪ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ
徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日
限り之ヲ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十二條 郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戶長ハ町村
ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ產物ヲ除クノ外増減ヲ記シ供給ノ
便宜ニ供ス可シ

第二十三條 徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ
一 馬匹車輛ハ其郡區内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ

二人夫ハ其郡區内ニ於テ負擔ニ係ル業跡ヲ爲スモノニシテ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノモノ

三廩圍倉庫ハ貸廩貸庫ニ限ル

四職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業體ヲ分チ記ス可シ

五官廨社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス

六物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ

七郵便局アル町村ニハ○其爲替局ハ◎電信分局ハ□其線路ハ二鐵道ハ一ノ符號ヲ記ス可シ

第二十四條 府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十五條 戶長ハ附錄第五號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ船舶表ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限り之ヲ海軍省ニ送付ス可シ

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總

テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寐所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必用ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一廨署
陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二將官其參謀部ト共ニ 一家屋

三上長官又ハ同等軍屬一名 一室

四士官又ハ同等軍屬二名 一室
 五下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊
 六卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半
 七徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿制主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス、雖用若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率于左ノ如シト雖用陸海軍給與ノ規則ニヨリ定量以内ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物
 二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藁五百目喰藁百五十目 晝秣藁五百

目喰藁百五十目 夕大麥二升秣藁五百目喰藁二百目
 演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藁五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藁一貫目喰藁五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藁一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣藁ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ニ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス 徵發例第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ 食飼ニ供ス

可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ準シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定價ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノ、差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設ク可シ

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載スヘシ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ヲ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其

毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルハ評價委員ニ付スベシ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ調査シ其調査書ヲ供給者ノ請求金額ヲ作リルモノハ之ヲ添フ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價
雇賃借貸ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受タル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ
其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍
官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ
賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ
食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償スヘシ

第五十三條 徵發令第四十二條中船舶實費トハ石炭油脂其他日用消
耗品ノ船舶中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積
入レタルトキノ現價ニ依リ算計スヘキモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者
ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並
ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣
郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ス場所ノ住民ニシテ其事件

ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他二名若クハ四
名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所
ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及
ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ擧用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニ
シテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ擧舉ス可キモノトス

其擧舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其擧舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣
會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルト
キハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ
戶長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キ者ノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ
其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出テタルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ査覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

- 一 評價ノ事項及ヒ事由
- 二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタル金額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆無タル年平均ニ以テ賠償金額ヲ定メタル歟其損害ノ程度幾分ニ止マリシタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又承可ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノ者トシテ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償金額ヲ定メタル歟ノ賠償種類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸

長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄 第一號ノ一

徵發書

一 宿舍 寮署用 將官幾人 上長官幾人 士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 庭園 幾匹分

右、、、 幾坪

一 倉庫 幾艘

右、、、 幾艘

一 舩船 幾艘

右、、、

一 何々 、、

右、、、

前書ノ通徴用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 徴發書ノ料紙ハ美濃紙紙タル可シ

附錄 第一號ノ二

徴發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何々

一何々

右内

何々

前書ノ通徴用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄 第一號ノ三甲

徴發書

一漁船

船名

一西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第一號ノ三乙

徵發書

一將校並同等官

幾名

一下士卒並同等

幾名

一馬

幾匹

一車

幾輛

一荷物略計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ某社所有ノ何號船ヲ

徵用シ某月某日某港出帆)某港ニ運送爲致候條遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第一號ノ四

徵發書

一上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等

幾名内、、、

一下等

幾名内、、、

一馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車

幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物略計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ通常(特別)瀛車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地へ運送候條

遲滯ナク供給可致事

何々長

官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第一號ノ五

徵發書

一 玄米

幾百石

一 精米

幾十石

一 薪

幾貫目

一 何々

右徵用候條某月某日限り供給有之事

年月日

何々長

官姓名印

附錄 第一號ノ六

某府(縣)宛

徵發書

一 某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍

右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年月日

何々長

官姓名印

某町(村)戸長役場宛

附錄 第二號ノ一

受領證票

一 宿舍

解署用 將官幾人 上長官幾人
士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 廐園

幾匹分

右、

一 倉庫

幾坪

右、

一 解船

幾艘

右、

一 何々

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓名印

第一編行政 第十四類徵兵徵發戒嚴 徵發事務條例

九百八十五

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戶長役場宛

備考 受領證票ハ總テ存留證票ノ式タル可シ

附錄 第二號ノ二

受領證票

一人夫

幾人

右内

某人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

某人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一馱馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

某府(縣)某郡(區)

備考 受領證票ハ總テ存留證票ノ式タル可シ

附錄 第二號ノ二

受領證票

一人夫

幾人

右内

某人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

某人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一馱馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何、、

一何々

右内

何、、

前書ノ通徵用候也

何々長

年月日

官姓名印

某府(縣)

某郡區役所宛

附錄 第二號ノ三甲

受領證票

一漁船

船名

一西洋形風帆船

船名

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徵用

前書ノ通徵用候也

何々長

年月日

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第二號ノ三乙

受領證票

一將校并同等官

幾名

一下士卒并同等

幾名

一馬

幾匹

一車

幾輛

一荷物略計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徵用
前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第二號ノ四

受領證票

一上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等

幾名内、、、

一下等

幾名内、、、

一馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車

幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物略計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ某月某日時通常(特別)瀛車徵用
前書ノ通徵用候也

年月日

何々長
官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第二號ノ五

受領證票

一玄米

幾百石

一精米

幾拾石

一薪

幾貫目

一何々

第一編行政 第十四類徵兵徵發戒嚴 徵發事務條例

第二節 徵發負擔費怠納者處分

○十六年八月第三十一號布告

徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分スヘシ但財産公賣ノ際買受望人ナキハ徵發區ニ没入シ不足金了ルキハ其區ノ損失ニ歸ス

右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年(五月)第二十二號布告ニ依ル可シ

○第三章 戒嚴

第一節 戒嚴令

○十五年八月第三十六號布告

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一方ヲ警戒スルヲ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍ノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ戒嚴スヘキ地方ヲ區畫シテ臨戰ノ區域ト爲スモノナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可

キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲スモノナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スルハ出征ノ指令官之ヲ宣告スルヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フヘシ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令長官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタルハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但シ其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申スヘシ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區

畫ヲ改正スルヲ得

第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擯ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ
ルハ刑ノ別ナク總テ軍衛ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲
スコト得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ
權ヲ有ス但シ其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルコト得ス

第一 集會若クハ新聞紙雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者
ヲ停止スル事

第二 軍需ニ供スヘキ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸
出ヲ禁止スル事

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ該ル諸物品ヲ所有スル者アル
時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スル事

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海
通路ヲ停止スル事

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ

破壊燬燒スル事

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中
ニ立入り檢査スル事

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アルルハ時機ニ依リ其地ヲ退去セ
シムル事

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宜告ヲ受クルノ
日マテハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總
テ其常例ニ復ス

第二節 戰時

○十五年八月第三十七號布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ
定ムルモノトス

第十五類 警察

○第一章 警察規則

○第一款 行政警察

第一節 行政警察規則

○八年三月第二十九號達

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡更取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ邏卒ト改稱可致此旨相達候事但捕亡費ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所並吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤モ差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省へ可申出事(明治八年第八十二號達ヲ以テ邏卒ヲ巡查ト改稱ス)

第一章 警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條 各府東京府除ク縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲノ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏警察セシム

第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索豫防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルハ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フ

其ハ檢事章程並司法警察官規則ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ル可ラス

第二章 警部勤務ノ事

第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區

内ノ人員戸數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要スヘシ

第四條 区内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルヲ得ヘシ

第六條 達又ハ訊問等ノイアルニ付テハ勅奏官及ヒ華族并有位者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方之事

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持区内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フキハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防

護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持区内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戸長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持区内ノ戸口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無産體ノ者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持区内ヘ他ヨリ移リ來ル者アテハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シムヲ得サルイアルキハ自ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部

ニ報知スヘシ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ニ報知スヘシ

第九條 非番タリ而合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルルハ速ニ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戸長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルルハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラル、ルハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戸長ニ預ケ之ヲ警部ニ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持區内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戸長ニ掛台

送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受クヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂癡人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルルハ其模様ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルルハ速ニ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ贗造腐敗ノ品之アル

ヤチ常ニ検査スヘシ

第廿三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第廿四條 怪キ者ヲ見認ルルハ取糺シテ様子ニ依リ持区内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラス

第廿五條 失火ノ節ハ邏卒失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人已ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第廿六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戶長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章 巡查心得ノ事

第一條 専ラ行儀作法ヲ正シク威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議ス可カラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ

交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心得事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レ々敷儀決テ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金譚等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戯ケ間敷儀等決シテ

有之間敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相頼候者アラハ掛官員ヘ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡シタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致間敷勿論兇暴入アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコアリト雖モ必ス耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ爭鬪ケ間敷儀致間敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシ金銀物品ヲ受ルコ有可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラサル事

第十九條 每朝衣服玩物其他器械ヲ檢査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ每朝清潔ニ掃除スヘキ事

○第二款 司法警察

第一節 司法警察假規則

○九年四月司法省第四十八號達

第一章 總則

第一條

凡ソ司法警察ノ爲ニ止ムヲ得サル處分ニ於テハ人ノ身體ヲ拘留シ居宅ニ進入シ物料ヲ押ヘ書簡ヲ開クヲ得而シ司法警察ノ處分ヲ行スハ司法警察官タル者若クハ司法警察官ヨリ委任ヲ受ケタル者ニ限ルヘシ

第二條

司法警察ノ處分ハ罪犯ヲ探索檢視ノ事證ヲ取り各裁判所ニ付スルニ在リ

第三條

司法卿ノ命ヲ受ケ司法警察ノ事ヲ行フノ官左ノ如シ

第一 檢事及檢事補

第二 警察使並地方警部

第二ノ警察官吏ハ其違警犯ニ於テハ司法警察ノ全權ヲ有スルヲ除クノ外其他ノ罪犯ニ於テハ檢事補助ト心得檢事檢視ノ職務ヲ攝行スルコトヲ得

但檢事派出ナキノ縣ハ地方官ノ命ヲ受クヘシ

警視廳長官及地方長官(東京府ヲ除ク)急遽ノ時ニ於テハ直チニ司法警察ノ事ヲ專行シ而後檢事ニ報告スルコトヲ得

但シ派出檢事ナキノ府廳ハ地方官ノ内常ニ檢事ノヲ行フ

第二章 檢事司法警察職務

第四條

檢事ハ違警犯ヲ除クノ外總テ罪犯ニ付テノ告訴被害人自ラ告發他人事者ヲ受取り及自ラ現行犯ヲ檢視シ檢視明細書ヲ作り若シツハ他ノ

司法警察官ノ檢視明細書ヲ受取り之ヲ相當シ裁判所ニ訴ヘ裁判ヲ求ムヘシ

第五條

犯罪ノ地ノ檢事又ハ犯人住所及寄留地ノ檢事又ハ犯人ヲ見出シタル地ノ檢事ハ並ニ前條ノ職務ヲ行フ事ヲ得

第六條

重罪犯若シツハ犯情繁雜ナル者ハ檢事ヨリ糾問判事ニ付シテ下調ヲ請フ下調濟ノ後檢事更ニ證憑文書ヲ受取り裁判所ニ訴ヘ裁判ヲ求ムヘシ

第七條

糾問判事ノ下調ニ於テ檢事不服ナルハ再ヒ他ノ糾問判事ニ下調ヲ求メ或ハ直チニ判事ニ付シ裁判ヲ求ムルヲ得

第三章 警察使並警部

第八條

現行犯罪ニ於テハ警察使又ハ警部ノ先ツ事犯アルヲ聞知シタル者

直チニ犯所ニ至リ檢事ノ行フヘキ一切ノ事ヲ行フヘシ
第九條

若シ一事件ニ付檢事ト警察使又ハ警部ト同時ニ檢視ノ爲メ犯所ニ至
リタルキハ警察使又ハ警部之ヲ檢事ニ讓ルヘシ

但檢事ハ警部ヲシテ引續キ檢視ヲナサシムルヲ得
第十條

檢事及糾問判事ヨリ警察使又ハ警部ニ委任シ自己職權内ノ一部ヲ行
ハシムル時ハ警察使又ハ警部ハ之ヲ奉行スヘシ

第十一條

警察使又ハ警部ハ受取ル所ノ告訴告發ノ文書若クハ現行犯ノ檢視明
細書及ヒ其他ノ書類ヲ速ニ檢事ニ送り檢事處分ニ供フヘシ故ナク淹
滞勾留スルヲ得ス

第四章 司法警察官現行犯處分
第十二條

現ニ行フ罪犯及現ニ行ヒ終リタル罪犯ヲ現行犯ト云衆人指名シテ其

犯主タルコトヲ傳シ若クハ兇器文書其他罪犯ノ證據タルヘキ物ヲ携
帶シ犯人ト思察スヘキハ犯罪ヨリ時日ヲ過キタリト云フ亦現行
犯ニ准ス

第十三條

現行ノ重犯アリテ巡査見知シタルキハ急飛ヲ以テ司法警察官ニ報シ
犯人ヲ追拿シ屍體若クハ兇器物具一切ノ證據ヲ看護シ原態ヲ保存セ
シメ它人ノ擾動ヲ防キ見證人ヲ離散ヲ制シテ以テ司法警察官ノ來着
ヲ待テ司法警察官ハ其最先ニ報知ヲ得タル者即刻犯所ニ臨ミ檢視處
分ヲ行フヘシ

但司法警察官ノ所在遠隔ナル者ハ巡査直チニ檢視處分ヲ行ヒ司法
警察官ニ報スルヲ得其報ヲ得タル司法警察官疾病故障アルキハ
巡査ニ委任シテ所分ヲ終ヘシムルヲ得

第十四條

司法警察官ハ犯罪ノ情狀ト犯所ノ摸樣ヲ視察シ行兇被兇見證人ヲ問
供シ證據物件ヲ押ヘ而シテ檢視明細書ヲ作ル之ヲ警視處分トス

第十五條

司法警察官ハ其場ニ居合セタル諸人ヲシテ檢視終ル迄ノ間事犯ノ場所ヲ出去ルコトヲ禁シ若シ背ク者アレハ直チニ拘留シテ判事ニ付スルコトヲ得

第十六條

司法警察官ハ巡査被兇人見證人近隣人及事犯ノ前後ノ事情ヲ知りタル者等一切關係ノ人ヲ喚ヒ其供述ヲ開キ各人ノ口書ヲ作り之ニ花押若クハ實印セシム

但花押スルコト能ハス又實印ナキ者ハ拇印セシム

第十七條

現行犯ノ跡アルニ於テハ被告人ヲ拿捕スルコトヲ得而シテ直チニ之ヲ糾問ノ口書ヲ作り被告人ヲシテ花押若クハ實印若クハ拇印セシム被告人逃走シタルキハ司法警察官直ニ巡査ニ命ジテ追捕セシム

第十八條

司法警察官ハ差押ヘタル兇器贓物文書其他犯罪ノ證憑タルヘキ物件

ヲ被告人ニ示シ其答辭ヲ取り并セテ口書ニ記入スヘシ

第十九條

差押ヘタル物件ハ明細書ニ記入シ其物件ヲ封印シ若クハ器物ニ納レテ之ヲ封印ス可シ

第二十條

司法警察官ハ技術ノ人醫師分析師建築工彫刻工ノ類ヲシテ司法警察官ノ面前ニ於テ驗察セシメ證書ヲ作り花押若クハ實印セシムルコトヲ得二人以上俱ニ驗察シタルキハ隔別ニ證書ヲ作ルヘシ

第二十一條

司法警察官檢視ノ處分已ニ終リ罪證ヲ得ル時ハ被告人ヲ拘留シ若シクハ保管シ其明細書及口書證人口書及證憑文書物件ヲ合セテ速カニ判事ニ送り裁判ヲ求ムヘシ

第五章 司法警察官非現行處分

第二十二條

現行犯ヲ除クノ外罪犯ヲ告訴若クハ告發スル者アリ及ヒ警部ヨリ告

訴告發ノ文書ヲ送付スルアレハ檢事書類ヲ檢シ又ハ一應訊問シ其法律ニ觸ル、モノト思察スルルハ其文書ヲ具ヘテ糾問判事ニ送付スヘシ

但時宜ニ依リ第十七條第二十條第廿一條ノ規則ヲ通シテ用フルコトヲ得

第一節ノ二 司法警察規則附錄

○七年九月第百二十八號達

外國公使及公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ霸廢スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家族並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量ス可シ

第二條 內國人公館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待テ後引出ス可シ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係ス

ルコニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置クヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名簿ニ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ヘハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ル可カラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其犯門者ニ告

ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ處スヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ内國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フヲ見及フカ或ハ現ニ見スト雖トモ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカキトキハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是レヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申ヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可カヌス或ハ屬員ノ内國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レ

タル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル時ハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之レヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムルハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ム可シ

○第三款

第一節 憲兵條例

○十四年三月第十一號達

(十六年十一月第五十二號達ヲ以テ改正加除ス今簡約ニ從ヒ逐條附記セス)

第一章 憲兵汎則

第一條 凡ソ憲兵ハ陸軍兵科ノ一部ニ位シ巡按檢察ノ事ヲ掌リ軍人ノ非違ヲ視察シ行政警察及ヒ司法警察ノ事ヲ兼テ内務海軍司法ノ三省ニ兼隸ノ國內ノ安寧ヲ掌ル其戰時若シハ事變ノ際ニ於ケル服役ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 憲兵ハ各軍管ニ布キ各府縣ニ配置ス

第三條

憲兵ノ職掌其軍紀ノ檢察ニ係ル事ハ陸海軍兩省ニ隸シ行政警察ニ係ル事ハ内務省ニ隸シ司法警察ニ係ル事ハ司法省ニ隸ス

第四條

憲兵其職務ニ關シ警視總監府知事縣令(東京府知事ヲ除ク)並ニ各裁判所檢事ヨリ指示ヲ受クル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ

第五條

憲兵ハ軍管ノ司令官ニ對シテハ鎮臺條例第十九條及ヒ第二十條ヲ遵守ス可シ

第六條

巡察中若シ警察ノ職權ヲ有スル者又ハ巡查ヨリ助力ヲ要求スルコトアラハ直チニ應援シ或ハ代ツテ其事ヲ掌ル又時宜ニ依リ憲兵ヨリ巡查ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第七條

軍人遊歩中途上ニ酔酏暴行シ或ハ酒樓食肆等ニ暴動シ或ハ武權ヲ弄シテ人ヲ侮凌スル等凡ソ隊外ニ在テ兇暴ノ所爲ニ涉ル者ハ直ニ逮捕シ若シ暴行者數人アリテ悉ク捕獲スルコト能ハサル時ハ其中ニテ造意者或ハ其威懼アル者ヲ逮捕ス可シ

第八條

若シ草賊一揆等ノ萌芽スルアラハ審カニ之ヲ觀察シ其首唱ノ人名及ヒ其人名員等ヲ探偵シテ速ニ報告スヘシ

第九條

水火災ノ節ハ專ラ其防救ヲ爲シ非違ヲ警メ及ヒ貨物運搬ノ場所等ヲ監視スヘシ

第十條

變死人アル時ハ其處分ヲナシ又老幼婦女及ヒ急病人或ハ瘋癲人等ノ危害ニ罹ル者アレハ其扶助ヲ加フヘシ

第十一條

憲兵ハ命令書ヲ有スルニ非サレハ漫リニ人ヲ逮捕シ若クハ人家ニ侵入シ若クハ物件ヲ差押ルコトヲ得ス

但現行犯及現行犯ニ准スル場合ハ此限ニ在ラス

第十二條

憲兵ハ漫リニ兵器ヲ用ルコトヲ許サズ
但シ其抗拒シテ制シ難ク殺傷シテ勢ヒ猶豫シ難キ者アル時ハ之ヲ用ルモ妨ケナシ

第十三條

凡何等ノ犯罪タルヲ論セス逃レテ外國公使ノ館地内ニ在ル者ハ之ヲ追捕スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ其外部ヲ警備シ速ニ屯所ニ報告シテ其指揮ヲ受クヘシ

第十四條

憲兵ハ其職務上ノ過誤失錯懲戒ノ止ムヘキ者ハ陸軍懲罰例ニ照シテ之ヲ處分ス

但シ事ノ軍紀ニ關セサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 布置撰任

第十五條 憲兵ハ現今先ツ東京府下ニ其一隊ヲ設置シニ大隊ヲ以テ之ヲ編制シ憲兵本部ヲ置キ陸軍卿ニ直隸ス

第十六條 府内ヲ六區ニ分テ之ヲ憲兵ノ六管區トナシ各管區ニ若干ノ屯所ヲ設ク其管區ノ配置左ノ如シ

- 第一管區 麴町區京橋區 第二管區 芝區赤坂區麻布區荏原郡
- 第三管區 四ッ谷區牛込區南豐島郡東多摩郡 第四管區 神田區本郷區下谷區淺草區 第五管區 深川區本所區南葛飾郡南足立郡 第六管區 小石川區北豐島郡

第十七條 憲兵ハ第十八條ヨリ第二十三條マテニ據テ其撰舉及ヒ進級ヲ爲ス者トス

但シ進級法ハ其最下限ヲ示ス者ナルヲ以テ其最下限ヲ越ル者ト雖モ必シモ直チニ進級セシムルノ例ニ在ラス

第十八條 兵卒ハ近衛及ヒ鎮臺ノ常備豫備後備軍ニ在テ左ノ三項ニ

合格スル者ヲ撰舉ス

第一項 年齢二十二歳ヨリ三十歳迄ニテ身幹五尺以上ノ者

第二項 讀ミ書キヲ爲シ得ル者

第三項 行狀方正ノ者

第十九條 伍長ハ憲兵卒ノ服役六箇月ヲ經タル者ヨリ選任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ伍長ニシテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ選任スルヲ得

第二十條 軍曹ハ憲兵伍長ノ服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ選任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ軍曹ニシテ其服役六ヶ月ヲ經タル者ヨリ選任スルヲ得

第二十一條 曹長ハ憲兵軍曹ノ服役一ケ年ヲ經タル者ヨリ選任ス

但シ時宜ニ依リ他兵科ノ曹長ニシテ服役其一ケ年ヲ經タル者ヨリ選任スルヲ得

第二十二條 下副官ハ憲兵曹長若クハ他兵科ノ下副官ヨリ之ヲ選任ス

第二十二條 士官以上ハ專ラ憲兵曹長以上ノ者ヨリシテ陸軍武官進級例ニ基キ順次昇級セシムルヲ以テ正例トス

第三章 職務分掌

第二十四條 憲兵隊長ハ憲兵大(中)佐ノ中一名之ニ任シ憲兵本部長トナリ部下ノ憲兵ヲ統率シ其命令ヲ司リ其勤惰ヲ監視シ憲兵本部ノ事務ヲ總理ス

第二十五條 隊長ハ各官長ノ命令或ハ依頼ヲ受テ其職務ニ服行シ及上其職務ノ事ニ係リテハ直チニ各官廳ト往復スルコトヲ得

第二十六條 隊長ハ非常ノ事件アルヲ探知セハ即時ニ之ヲ内務卿陸軍卿司法卿及ヒ警視總監ニ急報スヘシ

第二十七條 隊長ハ非常ノ事件アルニ際シテハ時宜ニ依リ直チニ鎮臺ノ應援ヲ要求スルコトヲ得

第二十八條 隊長ハ各大隊長ノ報告ヲ受ケ月末毎ニ報告書ヲ作り行政警察ニ係ル者ハ内務卿ニ司法警察ニ係ル者ハ司法卿及ヒ檢事ニ申告シ其行政及ヒ司法ニ係ル者ヲ併セ陸軍卿ニ申報スヘシ

但シ海軍部内ニ關スル報告ハ別ニ海軍卿ニ申告スヘシ

第二十九條 隊長ハ時々各管區并ニ屯所ヲ巡廻スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ軍曹及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十條 本部次長ハ憲兵少佐之ニ任シ長ヲ補佐シテ部事ヲ整理シ長事故アル時ハ其代理ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 次長ハ時々各管區并ニ各屯所ヲ巡回ス可シ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十二條 本部副官ハ憲兵大尉之ニ任シ次長ニ亞テ部事ヲ整理シ兼テ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス

第三十三條 本部副官ハ本部長若クハ次長ノ命ヲ受ケ各管區并ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第三十四條 本部下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ本部副官ノ命ヲ受ケ本部中ノ庶務ヲ掌ル

第三十五條 大隊長ハ憲兵少佐之ニ任シ部下ノ指揮ヲ司リ巡察ノ部

署ヲ定メ其隊ノ事務ヲ總理シ會計ノ事務ヲ監視ス

第三十六條 大隊長ハ時々所轄各管區並ニ各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長及ヒ兵卒各一名ヲ具スルコトヲ得

第三十七條 大隊長ハ各中隊長ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作り之ヲ隊長ニ申報ス可シ

但シ非常若クハ至急ヲ要スル事件ハ急報又ハ日報ヲ以テ申報ス可シ

第三十八條 大隊副官ハ憲兵中尉之ニ任シ其隊中ノ庶務ヲ掌リ併セテ武器掛及ヒ書記ノ勤惰ヲ監視ス

第三十九條 大隊副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ各管區並ニ各屯所ヲ巡回スヘシ其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十條 大隊下副官ハ憲兵曹長之ニ任シ大隊副官ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌ル

第四十一條 中隊長ハ憲兵大尉之ニ任シ其中隊ノ指揮ヲ司リ又管區

以下ノ會計給與ノ事ヲ管理ス

第四十二條 中隊長ハ時々管區内ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ伍長或ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十三條 中隊長ハ管區内ニ非常ノ事件アル時ハ直チニ出張シ之ヲ大隊長ニ急報シ其指揮ヲ受クルヲ例トス

第四十四條 中隊長ハ各屯所ノ報告ヲ受ケ一週毎ニ報告書ヲ作りテ之ヲ大隊長ニ申報スヘシ

第四十五條 小隊長ハ憲兵中(小)尉ノ内之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ時々各屯所ヲ巡回シ部下ノ勤惰ヲ監視ス其夜巡ヲ爲ス時ハ兵卒一名ヲ具スルコトヲ得

第四十六條 小隊長ハ各管區ノ事務ヲ分掌シ各屯所ノ報告ヲ掌ル

第四十七條 小隊長ハ變死人等アル時ハ醫員ヲ率テ其場ニ臨ミ死躰ヲ檢視シ軍人ハ該軍衙ニ通報シ其他ハ親戚故舊ニ引渡ス可シ若シ親戚故舊其地ニアラサル時ハ區役所若クハ區戸長役場ニ引渡ス可シ

第四十八條 小隊長ハ非常ノ事件アル時ハ之ヲ中隊長ニ急報シ其指

揮ヲ受ク

第四十九條 小隊副長ハ憲兵曹長之ニ任シ中隊長ノ命ヲ受ケ隊中ノ庶務ヲ掌リ併ヒテ書記ノ監督ヲ爲ス

第五十條 半隊長ハ憲兵軍曹之ニ任シ小隊長ノ命ヲ受ケ小隊長ノ在ラサル屯所ニ於テハ古參ノ者其長トナリ中小尉ノ職務ヲ辦理ス

第五十一條 半隊長ハ巡察ヲ派遣スルニ方リ其人員分隊ニ越ル時之カ長トナリ分隊長以下ノ勤務ヲ監視ス

第五十二條 本部武器掛ハ憲兵曹長同書記ハ憲兵曹長軍曹ヲ以テ之ニ任シ大隊附武器掛ハ憲兵軍曹同書記ハ憲兵軍曹伍長ヲ以テ之ニ任シ各副官ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十三條 分隊長ハ憲兵伍長之ニ任シ巡察及護送等ノ事ニ當リ分隊ヲ以テスハ其指揮ヲ爲シ兵卒ノ勤務ヲ監視ス

第五十四條 中隊附ノ書記モ亦憲兵伍長之ニ任シ小隊副長ノ命ヲ受ケ事務ヲ分掌ス

第五十五條 兵卒ハ守區ヲ畫シテ巡察スル者ナリト雖モ警察上追跡

スヘキ者アルニ方リテハ自他ヲ區畫スルノ限ニ在ラス又他ノ管區ト連續スルノ事件ハ相通牒シテ其處分ヲ爲ス渾テ巡察中ニ生スル事件ハ手帖ニ記載シ其報告ニ供ス

第二節 陸軍警察假規則

○十四年九月陸軍省第二號布達

第一條 此規則ハ憲兵平時ニ於ケル陸軍警察ノ勤務ヲ示スモノニシテ行政及ヒ司法警察并ニ海軍ニ關スル警察ノ事務ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

第二條 陸軍警察ノ趣意タル軍紀風紀ヲ維持スルニ在ルヲ以テ憲兵

ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ニ注目シ其非違ヲ警防スヘシ

第三條 現行犯罪人ハ直チニ之ヲ逮捕シ現行ニ非サル犯人ハ命令書ヲ以テ逮捕スヘシ

但懲罰ニ屬スヘキモノ及ヒ違式註違ノ犯人ハ之ヲ引致スルモノ

第四條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪

ヲ謂フ

第五條 左ノ場合ニ於テハ現行犯ニ准ス

- 一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレ、時
- 二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ其舉動ニヨリ犯人ト思料シタル時
- 三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ其戸主ヨリ處分ヲ請求シタル時

第六條 現行犯人ヲ取押フル爲メ人家ニ入ルヘキ時ハ官姓名ヲ述ヘ

直チコ入ルコトヲ得若シ之ヲ拒ミ或ハ藏匿スルモノアル時ハ懇ロニ説諭シ尙ホ用非サル時ハ侵入スルコトヲ得

但外國人ノ邸宅ニ係ル者ハ其主ノ承諾ヲ得テ搜索スヘシ若肯セサル時ハ其外部ヲ警備シ上官ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 現行犯罪アル時ハ犯人ヲ取押ヘタルト否トニ拘ハラヌ調書ヲ作ルヘシ

第八條 死傷其他檢證ヲ要スル者アル時其證憑ト爲ルヘキ物件ハ悉ク

ク原態ヲ保存シ他人ノ騷擾ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シ現場ノ景況ヲ屯所若クハ分屯所ニ報シ臨檢ヲ請フヘシ

第九條 脱走及ヒ休暇期盡キテ還ラヌ又ハ豫備後備軍ニ在テ擅ニ他管ニ出或ハ召集ニ應セサル軍人ト思料スヘキ者アル時ハ休暇免狀宿泊證書或ハ證據ト爲ルヘキモノヲ檢シ其之ヲ有セサル者ハ逮捕若クハ引致スヘシ

第十條 現行ニ非サル犯人ヲ認知スル時ハ順序ヲ經テ隊長ニ申告シ其命ヲ俟テ處分スヘシ

第十一條 告訴告發ハ詳細ニ聞取り事實相違ナク法ニ悖ラサルモノハ現行非現行犯ノ區分ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

但告訴告發書ニハ署名捺印セシムヘシ

第十二條 命令書ヲ以テ犯人ヲ搜索スルニ方リ其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料スル時ハ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 命令書ヲ以テ犯人ヲ逮捕スルニ方リ命令書ヲ見ンコトヲ請フ時ハ之ヲ示スヘシ

第十四條 犯人搜索ノ爲メ人相書ヲ要スル時ハ隊長之ヲ各分隊長ニ達シ分隊長ハ之ヲ部下ニ付シ各自ノ勤務手牒ニ記載セシムヘシ
但共犯人捕ニ就キ若クハ死去シタル時ハ隊長ヨリ速ニ其旨ヲ達スヘシ

第十五條 犯人ヲ逮捕スルニ方リ踪跡ヲ失スル時ハ罪狀並ニ容貌衣服攜帶ノ物品其他證據トナルヘキモノヲ詳記シ速ニ最寄屯所若クハ分屯所ニ報スヘシ

第十六條 犯人他區ニ遁逃或ハ潛匿スルコトヲ探知スレハ速ニ其區ノ屯所若クハ分屯所ニ報シ若シ他ノ使府縣ニ係ル時ハ隊長ヨリ其使府縣ヘ逮捕若クハ引致ヲ依頼スヘシ

第十七條 犯罪ニ關スル物件ヲ差押フル爲メ家宅搜索ヲ要スル時ハ命令書ヲ帶シ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十八條 犯罪ニ關スル物件ハ勉メテ原態ヲ變改セサルヲ要ス其轉移スヘカラサルモノハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

但已チ得サル場合ニ於テハ親屬又ハ隣佑ニ寄託スルコトヲ得
第十九條 隊長ハ犯罪ノ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ諸會社ニ事由ヲ通知シ其證據トナルヘキ者アル時ハ之ヲ差押ユルコトヲ得ヘシ

第二十條 犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ隊號官姓名等ヲ取調其逮捕ニ係ルモノ、携帶品ハ悉ク之ヲ取揚クヘシ就中劍銃火藥其他危害ト爲ルヘキモノニ注意スヘシ

但證人ト爲ルヘキモノニ對シ屯所若クハ分屯所ニ到ルヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 分屯所ニ於テ逮捕若クハ引致シタル犯人（違式註違ヲ除ク）ハ總テ屯所ヘ送付スヘシ
但屯所最寄ニ於テ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ屯所ニ送付

シ然ル後分屯所ニ報スルモ妨ケナシ、

第二十二條 違式註違ノ犯人ハ引致シタル屯所若クハ分屯所ニ於テ違式註違條例ニ照シ士官之ヲ處分スヘシ

第二十三條 屯所若クハ分屯所ニ於テ犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ本人所管ヘ通報スヘシ

第二十四條 分屯所ヨリ犯人ヲ屯所ニ送付スル時ハ調書ヲ作り携帶品及贓物等ト同時ニ送致スヘシ

但携帶品及ヒ贓物ハ犯人ノ面前ニ於テ目錄ヲ作り之ニ調印セシムルモノトス

第二十五條 屯所ニ於テ犯人ノ取調ヲ爲ス時ハ下士ヲシテ口供ヲ書取ラシメ兵卒一名若クハ二名ヲシテ看守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 犯人取調中黨類アルヲ認知スル時ハ速ニ隊長ニ申告スヘシ

第二十七條 犯罪ニ關スル物件ニ付鑑定人ヲ要スル時ハ分隊長ヨリ直チニ之ヲ召喚スルコトヲ得

第二十八條 鑑定ハ取調ヲ爲ス者ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシメ其鑑定書ニ署名捺印セシムヘシ

第二十九條 犯人ノ取調ヲ爲スニハ決シテ拷掠究治スルコトヲ許サス其罪ニ服セサルモノハ強ヒテ甘結セシムルコトヲ要セス

第三十條 分隊長ハ犯罪ノ軍律ニ觸ル、者ハ假口供並ニ關係書類ヲ隊長ニ送呈シ指揮ヲ請ヒ懲罰ニ屬スヘキ者ハ本人ヲ直チニ其所管ヘ交附スヘシ然レモ其軍律ニ觸ル、者ニ關涉スル時ハ隊長ノ指揮ヲ請フモノトス

但懲罰ニ屬スヘキモノニシテ本人ノ所管東京ニ非ラサルモノハ陸軍裁判所ニ送付スルモノトス

第三十一條 隊長ハ分隊長ヨリ犯人處分ノ指揮ヲ請フ時ハ尙水之ヲ審覈シ假口供並ニ關係書類ヲ添ヘ陸軍裁判所ヘ送付スヘシ

第三十二條 犯人取調ノ爲メ之ヲ拘留スルモ分屯所ニ於テハ一日(二十四時間)屯所ニ於テハ三日(七十二時間)ヲ過クルヲ得ス若シ事故ニヨリ定期ヲ超ユル時ハ其事由ヲ詳記シ上官ニ申告スヘシ

第三十三條 犯人ヲ護送スル時ハ嚴重ニ其取締ヲ爲スヘシ然レモ之
カ爲メ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第三十四條 犯人二名以上ヲ同時ニ護送スル時ハ其罪狀ニ依リ之ヲ
別異スヘシ

第三十五條 犯人暴行ヲ以テ逃亡セントスル時ハ勉メテ之ヲ制シ猶
從ハサル時ハ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 犯人若シ逃亡シタル時ハ速ニ追踪スヘシト雖モ之カ爲
メ他ノ犯人ヲ護送ヲ遲延スヘカラス

第三十七條 暴行ヲ鎮壓スル爲メ犯人ニ死傷アル時ハ其顛末ヲ速ニ
屯所若クハ分屯所ニ報シ檢視ヲ請フヘシ

第三十八條 中(少)尉若クハ軍曹檢視ヲ爲スニ方リテハ先ツ見證人
ニ就キ其事情ヲ聞取リ然ル後之レヲ檢視シ死傷ノ原因景狀等ヲ
詳記シ證告書ヲ作り診斷書ヲ添ヘ之ヲ上官ニ呈スヘシ

第三十九條 犯罪ノ事蹟并ニ器物等ハ詳細取調犯罪ノ證憑トナルヘ
キモノハ之ヲ拾聚スヘシ

第四十條 行兇人逃亡シ被害人生存スル時ハ其行兇人ノ容貌衣服其
他事情ヲ聞取リ之ヲ詳記シテ探索ノ用ニ供スヘシ

第四十一條 檢視終レハ被傷者及ヒ死屍ハ本人ノ所管ニ交付スヘシ
若シ其所管東京ニ非サル時ハ被傷者ハ東京陸軍病院ニ送付シ死屍
ハ假埋ヲ爲シ其旨ヲ所管ニ通報スヘシ

第四十二條 陸軍裁判所ヨリ死刑執行ノ通報アル時ハ警備ノ爲メ適
宜人員ヲシテ臨場セシムヘシ

第四十三條 證書類ハ左ノ書式ニ照シ楷行ノ書體ニ片假名ヲ交ヘ行
文ハ勉メテ簡明ナルヲ要ス若シ止ムコトヲ得ヌ改竄塗抹挿入等ヲ
爲ス時ハ必ズ本人ヲシテ認印セシムヘシ

(書式省略)

第二節ノ二 海軍警察心得

○十七年四月海軍省丙第六十六號達

第二條 憲兵ハ海軍警察ノ事ヲ行フ可シ但鎮守府及ヒ艦船屯營其他
海軍各官舎内ニ於テハ此限ニ在ラス

第二條 判士長若クハ審問委員ヨリ令狀ヲ付托シタル時ハ速ニ其執
行ヲ爲ス可シ

第三條 海軍軍人軍屬ノ現行犯人ヲ逮捕シタル時ハ之ヲ東京若クハ
鎮守府軍法會議ノ主理又ハ其被告人所屬ノ艦船屯營ニ送致ス可シ

第四條 海軍治罪法第二十五條ノ諸官其職務ヲ行フ爲メ若クハ主理
刑場警戒ノ爲メ兵員ヲ要求シタル時ハ其ノ求ニ應ス可シ

第五條 前數條ニ記載シタル外ハ陸軍警察規則ニ依リ處分ス可シ但
臨時告達若クハ命令アル時ハ其告達命令ニ從フ可シ

○第二章 雜部

○第一款 石油

第一節 石油取締規則

○十六年二月第六號布告

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十
度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一
種トシ三十度ニ達セヌシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療
製藥調劑用及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用
フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及小賣商ノ四類トス其
○營業者ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受クヘシ但二類
以上兼業スル者ハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ
之ヲ検査セシムヘシ

石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但
擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五
石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ
限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏ス
ル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)

ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油ダルクヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一節ノ二 同施行延期

○十六年三月第十號布告

明治十五年(八月)第四十四號及本年(二月)第六號布告石油取扱規則施行日限ノ儀ハ追テ布告候マテ延期ス

○第二款 遺失物

第一節 遺失物取扱規則

○九年四月第五十六號布告

第一條 凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第二條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年内其主ナキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但シ得者ヨリ其返還ヲ得ルキモ亦吏ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ之レヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトヲ得且ツ得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラズ貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止ニ其費用ノミヲ償ハシム

(明治十四年二月第二號布告ヲ以テ第六條ヲ改正ス)

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム

但シ盜贓ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照ラシテ處分ス

第九條 凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之レヲ官

ニ送ルヘシ若シ八日内其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第十條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給ズルコト私物ニ異ナルコトナシ

第十一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハズ遺失物ヲ得レハ速カニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之レヲ官ニ沒ス

第十二條 凡ソ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス并ニ官ニ沒ス

第十三條 凡ソ公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照ラシテ處分ス

第一節ノ二 官沒品公賣

○九年八月内務省乙第九十七號達

本年(四月)第五十六號公布遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品之儀ハ之ヲ公賣シ其金額毎六ヶ月分(七月ヨリ十二月マテ一月ヨリ六月マテ)取纏メ明細書相添大藏省へ納付可致此旨相達候事

但第十二條應禁ノモノハ此限ニ非ス且本文ノ通納付候ハ、其段當省へ可届出事

第二節 埋藏物掘出

○十年九月内務省甲第二十號布達

明治九年(四月)太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中千古代ノ沿革ヲ徴スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省へ届出検査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人へ下付シ該物品ハ永ク博物館へ陳列可致候條此旨布達候事
但シ物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ

郵送シ其見込ミアルモノニテ遞送方相ヒ達候後チ本文ノ通り可取計候事

○第三款 墓地

第一節 墓地及埋葬取締規則

○十七年十月第二十五號布達

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證

○内務省 御省乙第 四十四號 達
 墓火葬場 新設ノ
 方件ハ 衛生ノ
 事ニ付シ 地方衛生
 會行セサシムルニ
 施行セシメテ 衛生ノ
 官衛ニシテ 衛生ノ
 クルニ似タリ故ニ 墓

ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス
 第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行
 フヘシ
 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ク
 ヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ
 但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス
 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便
 宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

第二節 同方法細目

○十七年十一月内務省乙第四十號達
 本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準ト
 スヘシ此旨相達候事
 第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル
 但已ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於
 テハ地方廳ニ願出ヘシ

地取規則ヨリ相
 省相當ノ順序ヲ
 經テ施行シタリ
 追テ施行シタリ
 指令 二月十七日
 當令 二月十七日
 達儀ニ付本十
 十ノ日ニ本十
 一ノ日ニ本十
 墓火葬場ニ新
 設法ニ據ニ
 限相該ニ據ニ
 リ細目全キト
 ヲ施行前地ニ
 生會審議心
 スヘキ儀ト得
 二明治十七年十

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコ
 ト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村
 ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ
 習慣アルモノハ此限ニアラス
 但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬ス
 ルモノトス
 第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ
 内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス
 但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス
 第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
 第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシ
 テ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナ
 シ且周圍ニ塀牆ヲ設クヘシ
 但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル塀所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニ非ラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

第十六類 出版集會請願

第一章 出版

第一款

第一節 出版條例并罰則

○八年九月第百三十五號布告

第一條 (十六年六月第二十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス)

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントスル者ハ出版ノ日ヨリ到達日數ヲ除キ十日
前ニ內務省ヘ届ケ出ツ可シ

但社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此例ニアラス

第二條 圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ三十二年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此專賣ノ權ヲ版權ト云フ

但版權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故ニ版權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フ可シ其願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス(九年五月內務省甲第十四號布達ヲ參看ス可シ載テ末尾ニ在リ)

第三條 出版届版權願トモ草稿ヲ添ルニ及ハスト雖屆時トシテハ草稿ヲ徵シ檢査スルコトアル可シ

第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世治ニ害アル者ト認ムル者ハ其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルコトアルヘシ

第五條 出版届版權願トモ其ノ所在ノ地方廳本籍又ハ寄居ノ地方廳ヲ經由ス可シ

但著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在ノ地方廳ヲ經由スヘシ

第六條 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期ヲ許スコトアルヘシ

第七條 版權免許ノ爲メニ其年限ヲ記セル證書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルヲ許ス

第八條 著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算スヘシ

第九條 他人ノ著譯書已ニ版權ヲ有スル者ヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト看做スヘシ

第十條 他人ノ著譯書版權ヲ有スル者ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スル者モ亦原主ノ承諾ヲ得サル可カラズ

其出願ノ手續ハ前條ニ依ル可シ

第十一條 既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節略シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルニ非サレハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊數ヲ分合シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但屆書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ル可シ

第十二條 著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其版權ヲ願フキハ之ヲ與フヘシ

第十三條 版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ

但版權讓受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ツ可シ

第十四條 他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得可シ其版權願書若クハ出版書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條 版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス

但論辨若クハ證明スル爲メニ引用スル者ハ此例ニアラス

第十六條 同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ者

二人以上アル時ハ共ニ版權ヲ與フ可シ其事情明白ナラサル者ハ事由ヲ檢査シテ後チ之レヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十七條 外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリト雖モ乙者又之ヲ譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシテ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ版權ヲ願ヒ出ル時ハ檢査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條 著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ妨ケナシトス

但表題ノ上ニ何某ト記載スヘシ

第十九條 出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條 圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ム可シ
納本セス及ビ免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但出版ノ上每部定價ノ印ヲ押スヘシ

第二十一條 一版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ氏名

ヲ知ルヘカラサル者ハ其由ヲ記スヘシ而シテ何年何月日出版或ハ何年何月日版權免許ト記シ版主ノ住所氏名ヲ記スヘシ氏名ヲ記セズシテ別號ヲ記スルコト得ス

版權ヲ相續シ若クハ賣買若クハ分版シタル者ハ相續人及ヒ分版ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條 版權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スルキハ雙方連印シテ其由ヲ内務省ヘ届ケ出ツヘシ

第二十三條 版權ヲ分テ譲リ若クハ賣リ同一ノ圖書ヲ各自ニ出版スルコト妨ケナシ之ヲ公版ト名ク

但双方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ(十二年四月内務省甲第八號布達ヲ參看ス可シ職ヲ末尾ニ在リ)

第二十四條 版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版シテ届ケ出サル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十五條 願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加フル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出テヌ又ハ納本セサ

ル者ハ其版權ヲ失フベシ

第二十六條 免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出テタル上更ニ之ヲ與フヘシ

但手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條 小説歌謠ヲ出版スル者亦此條例ニ從フヘシ

第二十八條 (十六年六月第二十一號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ通改正ス)

彫畫ノ類ヲ出版セントスル者ハ出版前ニ内務省ヘ届出ツヘシ但版權ヲ與ヘス

(明治九年二月九日第十二號布告ヲ以テ左ノ二條ヲ追加ス)

第二十九條 版權免許狀附典ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上雛形ノ通藏版人免許狀ヘ地方廳印ヲ請フヘシ

第三十條 裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ツヘシ

但願出ル者ハ手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

(明治九年五月三十一日第八十一號布告ヲ以テ左ノ一條ヲ追加

第三十一條 都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者ハ其手数料トシテ金三十錢ヲ納ムヘシ
但收納方ハ免許料ト同様タルヘシ
出版條例罰則

第一條 (十六年八月第二十一號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ通り改正ス)
内務省へ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ヲ得スシテ免許ノ名ヲ冒ス者若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サスシテ發賣スルヲ禁止セラレタル圖書ヲ出版發賣シタル者ハ其刻版印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス

第二條 凡ソ偽版ヲ作り或ハ畫中ノ字句及ヒ繪圖ノ模樣ヲ變少シ若クハ少加シテ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出版スル者ハ罰金二十圓以上三百圓以下ヲ科シ其刻版印本及ヒ賣得金ハ沒收シテ版主ニ給付ス

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルヲ知テ之ヲ發賣スル

者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及ヒ賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス
第四條 無名若クハ版主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スル者并ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者ハ禁獄十日以上六月以下ヲ科ス
但沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 (十六年六月第二十一號布告ヲ以テ本條ヲ左ノ通り改正ス)
凡ソ著譯ノ圖書新聞紙條例第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十七條第三十八條第三十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ著譯者出版者共犯ヲ以論シ該條例ニ依テ罰ヲ科ス
但印刷器ヲ沒收スルハ第七條第二項ノ場合ニ限ル

第六條 (十六年六月第二十一號布告ヲ以テ本條ヲ削除ス)
第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及ヒ現存ノ印本ヲ勾收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス
活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若クハ付スル所

○ 太務省官
內務省官
第十六號
第十年六月
日以出
改正相成
第五條新
例同レ一
即用年一
二同ソ一
紙凡ソ一
スル條例
ヲ依リ
得サ
者

月第六十一號布告出版屆版權願改正書式中（或ハ何年何月ヨリ漸次出版）ヲ（内何年ハ何年何月出版）ト改正候條此旨布告候事
出版屆書若クハ出版版權願書式 用紙美濃紙

出版御届（版權ヲ願フ片ハ出版
形權御願ト記ス可シ）

一書名 何冊大（繪圖ナ）
小（レハ） 大小寸法

何年何月出版（内何冊ハ何年何月出版）

右ハ（私何誰先人誰）著作ノ事ヲ記載（翻譯ナレハ私以下
論述ニ代ルニ下交ヲ用
フ）何年何國何氏著作ト題シ何々ノ事ヲ記載セル原書ヲ
（私何誰先人誰）翻譯致シ一切條例ニ背キ候儀無之候間今度
（他人ノ著譯ナレハ此間ニ）出版致度此段御届申上候也
（示談ノ上ノ四字ヲ加フ）
（版係ヲ願フ片ハ此段以）
（下ニ代ルニ下交ヲ用フ）猶版權免許奉願也

何年月日

何府

何族籍

何誰

住所

他人ノ著譯書ヲ（著者）

同上

出版スルニ於テハ 出版人

何誰

印

同上

何誰

印

内務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

何年月日

何府知事
令某

印

既刻圖書板權願書式 用紙美濃紙

版權御願

一書名

何冊大（繪圖ナ）
小（レハ） 大小寸法

右ハ（私何誰先人誰）著作ノ事ヲ記載（翻譯ナレハ私以下
論述ニ代ルニ下交ヲ用
フ）何年何國何氏著作ト題シ何々ノ事ヲ記載セル原書
ヲ（私何誰先人誰）翻譯致シ去ル何年何月出版致シ候モ
ノニシテ一切條例ニ背キ候儀無之候間此段版權免許奉

願候也

何年月日

何府

何族籍

何誰印

住所

同上

他人ノ著譯書ヲ出

著者

何誰印

版スルニ於テハ

出版人

何誰印

内務卿某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

何年月日

何府知事 令某

印

他人ノ著譯ヲ續成シタル出版屆書若クハ出版版權願書式

用紙美濃紙

出版御届(版權ヲ願フハ出版
版權御願ト記スル)

何冊(大(繪圖ナ) 大小寸法 原何冊
小(レハ))

何年月月出版(内何冊ハ何年月月出版)

右前何冊ハ何誰著何々ノ事ヲ(記載ニ代ルニ下交ヲ用フ)

何年月何國何氏著何ト題シ何々ノ事ヲ(記載ニ代ルニ下交ヲ用フ)

翻譯致シ何年月出版(版權ヲ得シ者ハ此間) 免許ヲ受ケ候

處右何誰故障アリテ(後篇成功目途ナキニ因リ) 免許ヲ受ケ候

ヲ續譯致シ一切條例ニ背キ候儀無之候間今度示談ノ上出

板致度此段御届申上候也(版權ヲ願フハ此段以) 猶板權

免許素願候也

何年月日

何府

何族籍

前何冊(死後ナレ
相繼人) 板主

何誰印

住所

後何冊編譯者

同上

何誰印

(他人ノ著譯書ヲ出版スルニ於テハ同上板主并著譯者ノ名ヲ記シ加フルニ出版人ノ名ヲ以テス)

同上

出版人

何誰印

內務卿某殿

前書ノ通届出候ニ付進達候也

何年月日

何縣知事 令某

印

他人ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタル出版届書若クハ出版板權願書式用紙美濃紙

出版御届(版權ヲ願フ時ハ出版版權御願ト記スヘシ)

一書名

何冊(繪圖ナ)大小寸法

何年何月出版(内何冊ハ何年何月出版)

右原書何誰著何々ノ事ヲ論述(翻譯ナレハ何誰以下)何年

何國何氏何著ト題シ何々ノ事ヲ論述セル原書ヲ何誰

翻譯致シ何年月出版(版權ヲ得シモノハ此間)免許ヲ受ケ

何誰所持候處今度私誰校訂(節畧註解附録繪圖)ヲ加ヘ一切條例

ニ背キ候儀無之候間今度示談ノ上出版致度此段御届

申上候也(版權ヲ願フハ此段以)猶版權免許奉願候也

何年月日

何縣

何族籍

原書板主(死後ナレハ相續人)

何誰印

住所

同上

校訂註解者

何誰印

同

(他人ノ校訂註解等ニ係ル書ヲ出版スルニ於テハ他人ノ原書板主并校訂註解者ノ名ヲ記シ加フルニ出版人ノ名ヲ以テス)

出版人 同上 何 誰 印

內務卿何某殿

前書ノ通届出候ニ付進達候也

何年月日 何縣知事 印

板權買受讓受分版届書式 用紙美濃紙

一書名 何誰 御届

何冊大(繪圖ナ)大小寸法

右ハ何年月版權免許ヲ得テ何誰所持候處今度示談ノ上

何誰買受候ニ付(版主死去相續人受繼クキハ今何月何日

同人死去私版權相續致候ニ付)此段御届申出候也

何年月日 何縣 何族籍

賣主(或ハ版主又ハ分版主)

何 誰 住 所 印

同上

買主(或ハ受主又ハ分版主)

何 誰 印

(版主死去相續人受繼ク者ハ獨リ其者ノ名ヲ以テス)

同上

版權相續人 何 誰 印

同

內務卿某殿

前書之通届出候ニ付進達候也

何年月日 何縣知事 印

甲既ニ成譯シテ出版セル圖書ヲ乙又譯シテ出版スル届書若クハ出版版權願書式 用紙美濃紙

出版御届(版權ヲ願フ片ハ出版版權願書ト記ス可シ)

一書名 何冊大(繪圖ナ)大小寸法

何年何月出版(内何冊ハ何年何月出版)

右ハ既ニ何誰成譯出版版權免許有之候ヘ私誰今度新
譯致シ前譯ノ誤謬ヲ訂正シ(或ハ闕漏ヲ補ヒ又ハ其)一
切條例ニ背キ候儀無之候間御檢査ノ上出版致度此段御
届申上候也(版權ヲ願フハ此段以)猶版權免許奉願候
也

何年月日 何府

何族籍 住誰

何人ノ譯書ヲ出版 同上

スルニ於テハ 何

譯者 誰

出版人 同上

内務卿某殿 誰

何縣知事某 印

前書ノ通願出候ニ付進達候也

何年月日 何府知事某

版權免許証書式 印

第何號 圖書頭

之印 版權免許之証

何誰譯著 檢査主任之印

書名 何冊

版權免許之証 何縣何族籍

右者明治年月日ヨリ向三十年ノ間版權免許候也

明治年月日 何誰

内務卿某 藏版

版權賣買若クハ改題等ノ節免許狀ニ裏書書式 内務卿

〔府縣廳ノ印〕 某之印

〔府縣廳ノ印〕

免狀 朱

表 書版權免狀渡候也

裏面

何年月日 何ノ誰印
族籍 何ノ誰殿

免狀 朱

何年月日改題

裏面

書名

○八年十月内務省甲第二十一號布達

出版願届書ノ氏名從前族籍ノミ肩書致候處自今官位アル者ハ族籍并官位ヲモ記入シ可差出此旨布達候事

第二節 版權

○九年五月内務省甲第二十号布達

凡ソ新刻ノ圖書版權チ有シ度者ハ出版々權共合テ可願出若シ出版ノミ差出後日ニ至リ版權願出候共授與致サス候條此旨布達候事

第二節ノ二 藏版持轉

○九年八月内務省甲第三十号布達
版權免許ノ儀所在ノ地方應テ經由シ免許ヲ得テ後他ノ府縣ニ所屬換或ハ轉住寄留換等ニ付藏版持轉スル者ハ別紙書式ニ準シ新舊兩地方應テ經テ當省ニ可届出此旨布達候事

但他府下ノ者ニ版權渡ノ者モ出版前後ニ拘ハラヌ書式ニ準シ届出キ事

書式用紙美舊地方ニ

藏版持轉御届(出版前ノ者ハ移轉出板御届ト記スヘシ)

一書名 何冊

右何年月日版權免許ヲ受ケ所持候處此度何地方ニ所屬

移致シ藏版持轉(出版前ノ者ハ藏版以下)該地方ニ於テ出

版同縣ニ免許料上納候ニ付此段御届申上候也

何年月日

何縣何族

何誰

印

内務卿某殿

府縣與書出版届ニ同シ

新地方

藏版持轉御届(出版前ノ者ハ移轉出 版御届ト記スヘシ)

一書名 何冊

右何府縣ヲ經テ何年月日版權免許ヲ受ケ所持候處此度何府(所屬換 版移轉)致シ何地所へ藏版持轉(出版前ノ者ハ何地所以 下ニ代ルニ下テ用フ)何地所ニ於テ出版同縣へ免許料上納候ニ付此段御届申上候也

何年月日

何府何族

内務卿某殿

何 誰 印

奥書同前

第二節ノ三 納本

○十七年二月内務省甲第五號告示
出版圖書刻成納本ノ義ハ自今當省圖書局へ差出スヘシ

但明治九年二月布達納本書式宛名ハ局長ト改正ス

○八年十一月内務省甲第廿三号布達

圖書成刻致納本候節其所在地方應テ經由セズ本人ヨリ直ニ納附ノ向ハ其旨趣並ニ納本ノ定價等速ニ其地方應へ可届出此旨布達候事
但版權免許料ノ儀ハ必ス其地方應テ經由シ可差出事

第二節ノ四 免許料上納

○十四年一月内務省甲第一号布達
出版々權許可ノ圖書刻成前定價ヲ像定シ免許料上納候向モ有之候處自今刻成ノ上々納可致此旨布達候事

但明治九年當省中第四十一號布達ハ取消候事

第二節ノ五 公文及書建白請願書

○十七年十月第二十六号布達
式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ヲ記載セル圖書ハ明治十六年六月第貳拾壹號布告以前ノ出版ニ係ルモノト雖モ再版反刻若クハ之ヲ抄出シテ出版スルモノハ新聞紙條例第三拾壹條ニ依ルヘシ

第二節ノ六 従前發行ノ圖書

○八年十月内務省甲第二十号布達
 今般第百三十五号布告ノ通出版條例改正ニ付テハ従前發行セシ圖書
 ト雖モ淫褻俗ヲ亂ルモノ及ヒ新聞條例第十二條ヨリ第十四條マテニ
 係ルモノハ來明治九年八月三十一日限リ發賣差止候條此旨布達候事

第二節ノ七 外國人ノ翻刻

○十一年十二月内務省乙第九十号達
 我カ有版權之圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ内國人民ニ於テ
 販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共尙心得違ノ者無之機兼テ其旨相諭置
 可申此旨相達候事

第二節ノ八 守札及ヒ畫像

○十五年十月内務省乙第五十五号達
 神社寺院ノ守札ト可認モノ及ヒ神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院
 ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事
 但従前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ牴觸シテ都合ト認ムル場合ニ於テハ

更ニ申出ツヘシ

第三節 文部省藏版

○八年六月文部省第九号達
 當省藏版書籍翻刻ノ儀ニ付テハ昨明治七年第二十五號ヲ以テ及布達
 置候處當省藏版ノ書籍ハ自今悉皆翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以
 テ可願出此旨布達候事

但當省藏版書目ハ可及報告候事

○十四年三月文部省第一号布達

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ内誤刻有之モノ相見ヘ
 教育上ノ弊害ヲ生スル不妙儀ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢査
 ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨豫メ布達
 候事

但本文翻刻圖書ハ檢査ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當
 省ヘ一部納本可致候事

第三節ノ二 同註解圖書傍訓

○十二年二月文部省第二号布達
 文部省出版ノ圖書ニ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ増減シテ出版
 致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條
 此旨布達候事

○第二款 寫真

第一節 寫真條例

○九年六月第九十号布告

第一條 凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願出ル者ハ五年
 間專賣ノ權ヲ與フヘシ之レヲ寫真版權ト稱ス
 但之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルニ及ハス

第二條 版權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標号及ヒ定價并ニ版
 權免許ノ年月ヲ記載ス可シ

第三條 版權ヲ得タル者ハ寫真一枚ニ付キ三葉ヲ納メ仍ホ免許料ト
 シテ一版ニ付キ十二葉ノ定價ヲ納ム可シ之レヲ納メサル前ニ發賣
 スルヲ許サス

第四條 出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第二十二條第

二十三條第二十四條及ヒ第二十六條寫真版權ニ適用ス可シ

但シ出版條例第二十六條但書ノ手数料ハ一版ニ付キ六葉ノ定價
 ヲ納ム可シ凡ソ願届書等ノ手續モ總テ出版條例ニ依ル可シ

第五條 凡ソ圖書ヲ寫真スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版條例
 ニ依ル可シ

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現在ノ寫真ヲ
 沒收シ壹圓ヨリ少ナカラス十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ
 版權ヲ追奪ス可シ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫真ヲ復寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ
 之レヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫真ヲ沒收シ二
 圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサルノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ
 損害ヲ償ハシム
 但シ原主ヨリ訴出ルニアラサレハ受理セス

○第三款 新聞

新聞紙條例

〇十六年四月第十二號布告

○司法省
 神戶始審裁判所
 例事ヨリ新聞紙
 例違犯者ノ儀ニ
 付伺(電)
 新聞紙主編輯人
 例ニ違犯シ保釋
 處セラレ上署名
 中尙其新聞ニ署
 スルヲ得ルヤ直ク
 御指令ヲ待ツ
 明治十六年十二月廿六日
 指令
 新聞紙主編輯人
 告中新聞ニ署名
 ルヲ得サルヤノ件
 伺ノ趣右ハ署名
 ヘルヲ得ル儀ト心得
 ヘル

- 第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受クヘシ
- 第二條 新聞紙發行ノ願書ハ左ノ事項ヲ掲ケ持主若クハ社主ヨリ差出スヘシ
 - 一 題號
 - 二 記載ノ種目(政治法律農工商業等ノ類)
 - 三 刷行ノ定期又ハ無定期(毎日每周毎月又ハ無定期ニシテ逐號發行スル者)
 - 四 發行所及印刷所
 - 五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ原籍身分氏名年齢住所
- 第三條 社長幹事其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ新聞紙ニ署名スル者ハ總テ持主ノ例ニ依ル

- 第四條 新聞紙ノ題號記載ノ種目又ハ持主社主ヲ變更セントスルハ更ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ届出テ准許ヲ受クヘシ
 - 前項ノ外第二條ノ願書ニ掲クヘキ事項ニ於テ變更アルハ七日以內ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出可シ
- 第五條 持主若クハ社主死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルハ假ニ持主社主ヲ定メテ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得但七日以內ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受クヘシ
- 第六條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス
- 第七條 內國人ニシテ滿二十歲以上ノ男子ニ非レハ持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス
 - 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス
 - 公權ヲ停止セラレ及演說ヲ禁止セラレタル者其停止禁止間亦同シ
- 第八條 新聞紙ノ發行ヲ願出ツルハ保証トシテ左ノ金額ヲ納ムヘシ但シ專ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告ニ係ル者ハ此例ニ在

ラス

- 一 東京ニ府ニ於テハ千圓
- 一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
- 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

第九條 保証金ハ持主若クハ社主ヨリ爲替方又ハ銀行ノ預手形或ハ時價ニ準シタル公債証書ヲ以テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムベシ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ禁止セラレタルルハ保証金ヲ還付ス

第十條 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルルハ其准許ノ効ヲ失フ者トス

刷行ノ定期ニ發行セサルルハ七日以内ニ休業ノ旨ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ休業届出ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ再ヒ發行セサル者亦前項ニ同シ

無定期ノ新聞紙前號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過テ發行セサル者亦同シ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名並

發行所ヲ記載スヘシ

第十二條 發行所ノ外ニ於テ發賣スル者ハ其所及發賣人ノ氏名住所ヲ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ツヘシ

第十三條 新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及本管治審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十四條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムルルハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得

第十五條 各地方(東京府ヲ除ク)ニ於テ發行スル新聞紙前條ニ觸ル者ト認ムルルハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

第十六條 新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止シタルルハ内務卿ハ其新聞紙ヲ差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得府知事縣令ニ於テ停止ヲ命シタルルハ其新聞紙ヲ差押ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非レハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得ス

第十七條 一人又ハ一社ニシテ數個ノ新聞紙ヲ發行スル者一個ノ新

聞紙ヲ停止セラレタルハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス
第十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主編輯人印刷
人及ヒ筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論ス

第十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ニ付情狀ニ因リ裁
判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

其告訴發テ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判確定ニ至ル
迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完セス
又ハ損害ヲ賠償セサルハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサ
ルハ刑法第二十七條及ヒ第四十七條ニ依ル

保証金ヲ以テ裁判費用賠償及ヒ罰金ニ充テタルハ持主若クハ社
主ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ其
欠額ヲ納完スヘシ若シ納完セサルハ其新聞紙發行准許ノ効ヲ失
フ者トス

第二十一條 准許ヲ得ス又ハ准許ノ効ヲ失ヒタル後私ニ新聞紙ヲ發

行スル者ハ持主社主編輯人印刷人各六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ
處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ其執行シタル新聞
紙ヲ沒收ス其禁止停止ノ處分ヲ犯シ及第十七條ニ違テ發行シタル
者亦同シ

第二十二條 詐偽ノ願書若クハ届書ヲ差出シタル者及第四條第一項
第五條ニ違フ者ハ持主若クハ社主一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處
シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス編輯人印刷人情ヲ知ル者
亦同ク處斷ス

前項ノ場合ニ於テ内務卿ハ其新聞紙ノ發行ヲ禁止若クハ停止スル
コトヲ得

第二十三條 第四條第二項及ヒ第十條第二項第十一條第十二條第十
三條ニ違フ者ハ持主若クハ社主十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其
第十一條ニ違フ者ハ編輯人印刷人亦同ク處斷ス

第二十四條 禁止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ禁止
ノ日ヨリ二年間持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス犯ス者ハ三

月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

停止セラレタル新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新聞紙ノ持主社主編輯人印刷人ト爲ルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ
第二十五條 沒收若クハ差押ノ處分ヲ受ケ又ハ發賣ヲ禁止セラレタル後其新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ發賣者受賣者頒布者ヲ問ハス各十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 新聞紙ニ記載シタル事項ハ其原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問ニ備フヘシ違フ者ハ編輯人十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付官署ヨリ其所ノ訊問ヲ受ケタル時ハ之ヲ証明スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十八條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタル時ハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ

第二十九條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタル時ハ其求メヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲載シ又ハ正誤スヘシ違フ者ハ編輯人罰前條ニ同シ但其正誤ノ趣意法律ニ觸ル、者及ヒ之ヲ求メタル者ノ氏名詳ナラサル時ハ此限ニ在ラス

第三十條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其官報又ハ新聞紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スヘキコト總テ前條ノ例ニ依ル

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ハ其官報又ハ新聞紙ノ題號并刷行ノ年月日掲載ス可シ違フ者ハ編輯人貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス(明治十八年七月第二十一號布告ヲ以テ改正)

第三十一條 式ニ依リ宣布セサル公文及ヒ上書建白請願書ハ當該官司ノ許可ヲ得ルニ非レハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其大意ヲ錄シ若クハ草案ヲ掲載スルモ亦同シ

第三十二條 官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事ハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 重罪輕罪ノ豫審ハ公判ニ付セサル以前ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス裁判官審判ノ議事及傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辨論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス違フ者ハ罰前條ニ同シ

第三十四條 陸軍卿海軍卿ハ特ニ命令ヲ下シテ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事ヲ記載スルコトヲ禁スルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕錮禁ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情重キ者ハ印刷器ヲ沒收ス

外務卿ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ記載ヲ禁ズルコトヲ得其禁ヲ犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第三十五條 新聞紙ヲ以テ人ヲ教唆シ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法ノ例ニ依ル其教唆ニ止マル者ハ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス

第三十六條 刑法第二編第一章ノ刑ニ觸ル、者ハ印刷器ヲ沒收ス

第三十七條 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其第三十五條ニ觸ル、者ハ重ニ從テ處斷ス

本條ヲ犯ス者ハ其印刷器ヲ沒收ス

第三十八條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ義ヲ亂ル者及ヒ顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲載スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十九條ノ場合ニ於テ被害者ノ私事ニ係ル者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四十一條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十二條 外國ノ新聞紙及ヒ書籍ヲ譯出シ新聞紙ニ記載スル者亦此條例ニ依ル

附則

現今發行ノ新聞紙ハ東京府下ハ此條例發布ノ日ヨリ其他ノ地方ハ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ此條例ニ從ヒ願書及ヒ保証金ヲ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ差出スヘシ若シ期限内ニ差出サ、ルルハ准許ノ効ヲ失フ者トス其願書及ヒ保証金ヲ差出シタル者ハ引續キ發行スルコトヲ得

第二節 論說轉載

〇十八年五月內務省甲第拾七號達

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙（歐文新聞ヲ除ク）ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルルルハ必ス原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候條現ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスルモノハ出願ノ際其旨持主又ハ社主ヘ相達左ノ書式ニ準シ受書ヲ徵シ當省ヘ進達可致此旨相達候事

但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本文原新聞持主又ハ社主ノ承諾證爲差出受書一同進達候儀ト心得ヘシ

書式

今般何新聞發行相願候ニ付准許相成候上ハ自今何新聞紙ニ歐文ノ新聞紙ヲ除キ他ノ新聞紙ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ轉載致候節ハ必原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ得タル上記載可致候也

年月日

持主何ノ誰

警視總監 宛
府知事縣令

豫メ轉載ヲ目的トスル新聞紙原新聞紙持主又ハ社主ノ承諾證ニ添付スル書式

今般准許相願候何々新聞何々新報ニ掲載スル論說ヲ轉載致候目的ニ付何々新聞何々新報持主又ハ社主ノ承諾ヲ得候條別紙承諾證相添此段御届仕候也

年月日

持主何ノ誰

警視總監 宛
府知事縣令

第三節 官報抄錄

○十六年六月第二十一號布達
 凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得
 官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正スルハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ

○第四款曆

第一節 曆附一枚摺略曆

○三年四月廿二日布告
 頒曆授時ノ儀ハ至重ノ典章ニ候處近來種々ノ類曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今以曆者ノ外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事
 ○十五年四月第八號布達
 本曆並ニ略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラズ出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月內務省甲第卅九號布達ハ取消ス

○第二章 集會

第一節 集會條例

○十三年四月第十二號布告

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結合スルモノヲ併稱ス)スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルモ同様タル可シ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル
爲メニ集會ヲ爲サントスルハ尙ホ第一條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル
者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルハ爾後
ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖田之ヲ變更スルハ第一條ノ手續ヲ爲
ス可シ

第四條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
管轄警察官ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト
認ムルハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消ス可
ル可シ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可
ノ証ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコアル可シ
(明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス)
警察官會場ニ入ルハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルハ結
社集會ニ關スル事ハ何事アリ田之ニ答辨ス可シ

第六條 派出所ノ警察官ハ認可ノ証ヲ開示セサルハ講談論議ノ届書ニ
掲ケサル事項ニ亘ルハ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又
ハ公衆ノ安寧ニ妨害ナリト認ムルハ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ
退去ヲ命ジテ之ニ從ハサルハ全會ヲ解散セシム可シ

(明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス)
前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命ジタルトキ地方長官(東京ハ警視長官)
ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以内管轄内ニ於テ公然政治ヲ
講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解散セシムル
コヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以内内國
内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコヲ得

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備
後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝
ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコヲ得ス

第八條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若

クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連
絡通信スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集
會ヲ催スコトヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上
二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席
ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓
以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

第十一條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項
ヲ開答セサルハ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届
出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルハ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一
日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條 (明治十五年六月三日第廿七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)
第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ

席ヲ供セサルハ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰
金若クハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス
又ハ偽答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ
罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セサル者ハ
貳圓以上廿圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス
第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルハ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓
以上貳十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其
他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ
又ハ臨會スル者ハ貳圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルハ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓
以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社
ヲ退散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再
犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ
禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 (明治十五年六月三日第二十七號布告ヲ以テ左ノ如ク改正
シ更ニ第十七十八十九ノ三ヶ條ヲ追加シ而シテ本條ノ舊成文ヲ第
十九條トナス)

學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集會スル者警察
官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルハ之ニ監臨スルコ
トヲ得若シ其監臨ヲ背セサルハ第十二條ニ依テ處分ス
學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルハ第十條
ニ依テ處分ス

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルハ第六條ニ依
テ處分ス

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリ
ト認ムルハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハズ又ハ仍ホ
秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二
月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

○十三年四月第十三號布告

今般第十二號布告ノ通り集會條例被定候ニ付テハ從前集會結社候者
モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ此旨布告候事

○第三章 請願附建白

○第一款 請願

第一節 請願規則

○十五年十二月第五十八號布告

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ
左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區
長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指
令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太
政官ニ請願スルコトヲ得

府知事縣令警視總監職務内ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願ス
ヘシ府知事縣令警視總監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主

務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得
各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太
政官ニ請願スルコトヲ得

第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス
官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願
スル者ヲ除ク外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スル
者ハ各人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人ア
ルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス
但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條 請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルヲ許サス數人連名
スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委托スヘシ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得
第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添

フヘシ

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直チ
ニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルキハ主務省ニ付シ處分セシムヘシ
第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又裁
判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以
テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ經ス及第三條第四條第五條第六條
第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署ノ
外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ請フ

者八十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス

其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第一節ノ二 請願書用紙

○十六年一月內務省甲第二號告示

明治十五年(十二月)第五十八號布告ニ據リ請願スル書面ハ美濃紙ヲ用ヒ正副二通宛指出スヘキ者トス但シ其書面ヲ却下スル場合ト雖モ

副書ハ留置クコアルヘシ此旨告示候事

○第二款 建白

第一節 建白取扱

○十三年十二月第五十三號布告

凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○九年二月第十三號布告

近來行幸ノ節御途中ニ於テ突然儀仗内へ衝入シ訴狀建白書ノ類差出候者往々有之右ハ國律ニモ明載有之儀ニテ甚以不相濟次第ニ候得共小民共事情切迫ノ餘リ心得違ニ依リ終ニ罪科ニ相觸レ候様ニテハ愍然ノ至リニ候條向後右様心得違ノ者無之様諭達可致此旨相達候事但願願建白等規則ニ依リ其筋へ差出候ハ、取上可相成旨ヲモ是又懇諭可及置事

第一節ノ二 同差出方心得

○九年一月第二號達

立法ニ關スル建白元老院へ差出方心得別紙ノ通候條此旨爲心得相達候事

第一條 凡建白書ハ立法ニ關スル事項ニ非サレハ元老院ニ於テ受付セサルヲ以テ若シ誤テ他事ヲ言フ者ハ之ヲ廢棄ス可シ

第二條 凡建白書ハ其本貫身分姓名年齢職業住所ヲ誌シ其姓名ノ下ニ實印ヲ捺シ或ハ花押ヲ手書シ且表紙ニ其書ノ大意ヲ記シ必ズ正副二本ヲ出ス可シ

第三條 凡建白書ハ普通ノ文ヲ用フ可シ若シ外國ノ語ヲ用ヒサルヲ得サルハ其譯語ヲ附ス可シ

第四條 凡建白書ハ國ノ爲メ意見ヲ上陳スル者ニシテ固ヨリ乞願書ノ類ニ非レハ其取捨ハ別ニ本人ニ告ケス

○第十七類 銃砲彈藥

○第一章 銃砲

第一節 銃砲取締規則

○五年正月第三十八号布告

第一則

一大小銃並ニ彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下 各五員

一縣下 各三員

一鎮臺本分營下 各一員

但府縣廳下開港等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司へ届ケヘキ事

第二則

一 免許商人タリ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受取其員數ヲ以テ買取可申事
但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ可願出事

(十三年三月第八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス)

一 免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入ントスルハ買入願書ニ其賣主ノ連書ヲ爲サシムヘキ事

第三則

一 免許ノ商人其買買ノ銃砲彈藥ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳へ差出ス可シ其應ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺へ差送可申事
但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半年明細帳ヲ以テ東京武庫司へ差送リ可申尤モ東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圖可申事
但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ願出ヘキ事

第五則

一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ヒストールニ至ル迄秘ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武庫司へ持出別紙銃砲改刻印式ノ番號官印ヲ受可申他人へ讓與へ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ
但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

千支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺ヨリ東京

武庫司へ差送可申事

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユル者ハ之ヲ許ス
右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳
ヨリ東京武庫司へ差出可申 東京大坂ハ所持ノ者ヨリ
直ニ武庫司へ届出ヘシ 萬一軍用獵用銃
ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ証印ヲ据へ可相
渡事

第六則

〔六年第二十五號布告鳥獸獵規則ヲ以テ廢ス〕

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明
シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事
但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り
檢査ヲ遂ク採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可
有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記

シ管轄廳へ爲指出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事

但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事

右之通ニ候事

參看

○八年六月第百十一號達

今般銃砲彈藥取締ノ儀内務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀
モ可有之候得共差向キ従前規則之通相心得取締可致尤右規則中是迄
陸軍省及各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ付
抵觸ノ簡條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事

第二節 武官所有軍用銃賣買取扱規則

○十三年三月第二十二號達

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年正月第二十八號布告ニ依リ管轄
廳ノ檢査番號ヲ受來候所自今準士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘ
シ此旨相達候事

一 武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

○農商務省
石川縣伺
明治十年一月内務
省乙第三號及同年

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノ爲メ使府縣廳(東京ハ警視本署)ヘ通知スヘシ

第二條 武官軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入ル、時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ免官スルキハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名(檢印アラハ其番號)ヲ記載シ使府縣廳(東京ハ警視本署)ヘ届出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民ヘ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳(東京ハ警視本署)ヘ差出スヘキ願書ヘ連署スヘシ

第三節 鳥獸獵規則

○十年一月第十一號布告

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊獵ノ爲メニスルヲ遊獵トス

同省乙第三十三號
達ハ明治十七年三
月御省第六號達ヲ
以テ廢セラレ候ニ
付テハ准外吏ハ勿
論巡査等外吏ニ至
ル迄職差許共分苦
様被相考候得共分
界判然致サス候取
付仰御指令候也
明治十八年一月十七日

指之趣 紳官長
便取人 巡査等
吏他職 差許不
其判任 以上ハ
官吏ト 雖用テ
獵不相 成候事
職

明治十八年一月廿六日

第二條 銃獵免狀ナキ者ハ總テ銃獵スルヲ禁ス但シ有害ノ鳥獸ヲ除クカ爲メニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳(元内務省トアリ十四年第四十三號布告農商務省ト爲シ復同年第六十一號布告警視廳ト改ム第六條亦同シ)其他ハ該地方管廳ヘ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受クル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅 金壹圓

一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニ依リ免狀ヲ毀失スル時ハ速カニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖用テ手数料トシテ金貳十五錢ヲ納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一十六歳未満ノ者

一白癩風癩等ノ者

一故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲ爲スヲ禁ス

一都府市街ハ勿論衆人羣集ノ場所

一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離

一禁獵制札ノ場所

但制札ハ銃獵ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記

シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條 銃獵ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋銃獵ニ限ルヘシ軍銃

ヲ用フルヲ禁ス

(明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ左ノ如ク但書ヲ加フ)

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是

時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニ依リ已ムヲ得ス此時限ヲ伸縮スルモ其理由ヲ

農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ攜帶スヘシ出獵中警察官

東區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アルモ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスルモハ

第八條所示ノ如キ制札ヲ立テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ爲スヘシ

第十四條 總テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスモ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵

スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ルモ犯人罰金ノ

半ヲ賞トシ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナ
カラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

(明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ第十八條ヲ追加ス)
第十八條 一 开拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵
フヘシ

○第二章 彈藥

第一節 彈藥雷管賣買手續

○十一年五月第十一号布告

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用
ノ彈藥雷管ニ限り賣買手續左ノ通相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需
用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其免許若クハ免許証ヲ以テ彈藥賣
買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルヲ証スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免許証ヲ認メ正確ナリトスル
時ハ左ノ程限ニ照ラシ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々

其管轄廳(東京ハ警視本署)へ届出ツヘシ

西洋形獵銃用 彈藥 彈散バト 二千發

同上用 雷管 四千粒

火繩銃用 火藥 一貫目

威シ銃用 雷管 一萬粒

室内銃用
右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハ
ント欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

第二節 火藥庫圍線規則

○九年九月第百二十号布告

第一條 火藥庫周圍近接ノ地ヲ分チ二圈トシ火害ヲ豫防スルコト左ノ
如シ

第一圈 火藥庫牆壁外十四間以内ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材
木草秣其他總テ燃質物ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二圈 火藥庫牆壁外二十八間以内ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ
設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及發火質ノ物品ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二條 全國火藥庫所在ノ地名

第一項 陸軍省所轄ノ火藥庫左ノ如シ
(簡所略之)

第二項 海軍省所轄ノ火藥庫左ノ如シ
(同前)

第三項 開拓使所轄ノ火藥庫左ノ如シ
(同前)

第二節ノ二 火藥取締規則

○十七年十二月第三十一號布告

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥捕火藥 ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞 其他劇發火藥ノ物品ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マツチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條 火藥類火藥劇發火藥ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳東京

府ハ警 視廳ニ願出免許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限り陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハ警視廳ニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ検査セシムルコトアル可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラズ

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受タル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アレハ之ヲ添ヘ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者

ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未滿若クハ白痴風癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用途ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用

火藥

三百目

雷管

五百個

船舶設備銃砲用

大砲一門ニ付
小銃二挺ニ付

火藥 五十發分
火藥 百發分

雷管 五十個
雷管 百五十個

烟火製造用

火藥

五貫目

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條 營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條 營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ之ヲ添ヘハ翌月十日迄ニ所轄警察署ヘ届出可シ

第三章 貯藏

第十三條 火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百個迄ハ管轄應^{東京府ハ}警視廳^{警視廳}ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖^モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條 火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條 火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添へ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條 火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條 火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五中間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサヌ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラヌ又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノヲ建ツ可シ

第十九條 火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラヌ又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラヌ

第二十條 坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ハ警視廳ニ願出許可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥貳百貫目劇發火藥參拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條 烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラヌ

第四章 運搬

第二十二條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケテ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鉄釘鉄輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ藎包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ノ小艇ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ

明治六年^ハ月第貳百九拾貳號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條 火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十二條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十

圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十

二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳^{東京府ハ}ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從

フヘシ

第二節ノ三 火藥類鐵道運送條規

○十八年四月工部省第十四號告示

明治五年(五月)第四百四十六號公布鐵道畧則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ

第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ運送セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ但兵員乘車ノ時其攜帶スル彈藥ハ此限ニアラス

第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金一錢二厘ト定ム但三千五百斤以下及二十哩以内ト雖モ猶本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四十錢ヲ徵スヘシ

第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四十八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナキトキハ之ヲ運送セサルモノトス但非

常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニアラス

第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ

第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得サルトキハ必ス革布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ

第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸烟スルヲ許サス

第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クヲ防クヘシ

第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付

金二圓ノ遲滯料ヲ徴スヘシ

第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其實ニ任セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス

第十一條 火藥類ノ運送ヲ委託スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第三節 爆發物取締罰則

○十七年十二月第三十二號布告

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ノ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月

以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備隱謀ヲ爲シタル者ト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

第十八類 衛生

○第一章

第一節 傳染病豫防規則

○十三年七月第二十四號布告

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹窒扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳（東京府下ハ府廳及ヒ警視本署）ニ届出ツヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ケナシ

（明治十三年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ增加ス）

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治愈死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性状ヲ記シテ速カニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但(明治十二年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第四條 (明治十二年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ削除ス)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ
第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カヌ若クハ病

毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシム可シ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但シ患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後千相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ(十五年八月第四十七號布告ヲ參觀ナス可シ載テ末尾ニ在リ)

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム可シ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ケナシ

第十二條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流水道、及ヒ圃園、芥溜、下水、

溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルキハ地方長官ハ內務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

(明治十五年九月一日第四十八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス)

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ツヘシ但シ本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ內務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得

(明治十四年十月七日第五十八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス)

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル機遮斷シ得ヘキモノト見認ムルキハ地方官ヨリ內務卿ニ稟議シ交迎ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 (明治十二年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ左ノ如

改正ス

發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 (明治十五年九月一日第四十八號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

痘瘡病者アルキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此ノ規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第廿四條 人民此規則ニ違背シタルキハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス
參看

○十五年八月第四十七號布告

明治十三年(七月)第三十四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分之ヲ施行セズ

第一節ノ二 罹傳染病ノ無資力者

○十六年二月第八號達

明治十四年(四月)第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事
傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキハ本籍寄留旅行ヲ問ハズ其費ハ總テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ
但流行ノ勢盛ナルハ時宜ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

第一節ノ三 天然痘豫防規則

○九年內務省甲第十六號布達

第二條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必種痘ス可シ若シ事故在リテ此期ニ後ル、者ハ其次第ヲ醫務取締若ハ區戶長ニ届クヘシ

但初痘ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條 種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ請取リ置クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ請取リ置クヘシ

第三條 醫務取締若クハ區戸長ハ初種ノモノ再三種ノ者及ヒ事故アリテ種痘スルコト能ハサルモノ等夫々検査シ地方廳ニ届ケ出ツヘシ

第四條 地方廳ニ於テハ醫務取締若クハ區戸長ノ届書ヲ以テ半ケ年分ツ、取纏メ毎年三月九月内務省ニ届出スヘシ

第五條 送籍ノキハ必ス第二條ニ掲グル醫師ノ證書ヲ所持ス可シ

第六條 管内ニ於テ天然痘流行スルキハ官廳ヨリ流行ノ緩急病症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届ケ出可シ

第七條 前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年齢期限ヲ問ハス普ク接種スヘシ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若クハ他人ヲ蠱惑スル等ノ者ハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科ス可シ

第二節 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

○十五年六月第三十一號布告

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可シ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可ラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ヲ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ

(十八年九月第廿九號布告追加)

但検査官ニ於テ必要ト認ルキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ其死者ハ(若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ從ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後チ之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚ケスルノ許可ヲ與フヘシ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ

第三節ノ二 同検査手續

○十六年六月内務省内第三號達

昨十五年太政官第三十二號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行之義當省ヨリ相達候節内外國船舶トモ検査ノ義ハ左ノ手續書ニ據リ可取扱此旨相達候事

一 船舶人港スルキハ檢疫官少クモ二名速ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルキハ英語通辨者一名ヲ伴ヒ且檢疫官タルノ證甲號書式ニ據ルヘシ但檢疫官各一葉ヲ帶有ス)船長ニ示シタル後(虎列刺病流行地方ヨリ來レルヤ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ヲ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スヘシ若シ必要ト認ムルキハ自ラ船内ヲ巡檢スヘシ)

一 船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキコトヲ信認スルキハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康證明スル書面ヲ出サシメ)直チニ規則第三條ニ

表面

(某)港ニ到着セシ風帆船(某)號ノ船長ニ交付ス

風帆船(某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(某)港検査官タル余等ハ明治十五年六月二十三日付第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者及ヒ其死屍ナキヲ信認スルヲ以テ該規則第三條ニ據リ直チニ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スルヲ許可スルモノナリ

大日本帝國(某)府下

年月日 (某)港検査官

氏名印

同

氏名印

裏面

外國船ニ與フル者ハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ
外丙號證書式寸法用紙トモシニ全クスヘシ

表面

(某)港ニ到着セシ風帆船(某)號ノ船長ニ交付ス

風帆船(某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來レルヲ以テ(某)港検査官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三十一號布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航海中ニ於テ虎列刺病患者幾人(又ハ死屍幾個)アリタルヲ以テ該規則第三條第一項第二項ニ據リ之ヲ處置シ乗組人船客ニ消毒法ヲ施行シ其上陸ヲ許可スルモノナリ(船舶積荷ニ消毒法ヲ施シタル後與フヘキ證書ハ該規則以下ヲ「該規則第三條ニ據リ悉ク之ヲ處置シ總テ消毒ヲ施行シ了リ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スル」ヲ許可スル者ナリ)ニ作ルヘシ

大日本帝國(某)府下

年月日 (某)港検査官

氏名印

同

氏名印

裏面

外國船ニ與フル者ハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スヘシ
○明治十八年九月内務省甲第三十一號
虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襪履ヲ他ノ健康
地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

第二節ノ三 檢疫停船規則

○十二年七月第二十九號布告

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカ爲メ茲ニ左ニ掲クル
規則ヲ開港場ニ施行スルコトヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令
スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 (明治十二年七月卅一日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正)
中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能
ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ
地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應
ジテ増減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナ
キヲ以テ足レリトスヘシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定
メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ
病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所並ニ
停留セラレタル人ノ爲メ都テ必需ノ具ヲ備タル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港
ノ前檢疫ノ爲メ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名ヲ派出
シテ之ヲ検査スヘシ但シ右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シ
テ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之
ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ
調印シテ差出ヘシ(以上ノ十二字十二年第卅號布告ノ改正ニ係ル)
船長ハ檢疫官吏ノ求ニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ
艙ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ依テ
病毒ニ感染シタル恐レアルキハ其検査ヲ受クヘシ
檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閱シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船
内現在ノ人員ト引合スコトヲ得ヘシ

第五條 (明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ第一項及ヒ第二項共左ノ如ク改正ス)

虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及ヒ其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラズ又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノナキ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルキハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該船ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者ナシト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速カニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハズ自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危險ナリト見込ム者ハ消毒法ヲ行フヘシ消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速カニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處分スヘシ

第七條 (明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改ム) 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシコト又ハ病毒感染ノ恐ナク且ツ航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシコトナキ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從シムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ

(明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ第二項及ヒ第三項共ニ左ノ如ク改ム)

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未タ癒エサレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸

ノ處置未タ済マサルキハ其ノ爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ル可キ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲ニ特ニ設ケル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ残りタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條 (明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルヲ